

特集

学びの核の現在地



連載

贈る言葉

金井 昭夫 桑原 武夫
巖 網林 柳町 功
小池 智子 野末 聖香



KEIO SFC REVIEW

TABLE OF CONTENTS

No. **82**

特集

02 学びの核の現在地

04 カリキュラム解説

06 **寄稿企画** 必修5科目の担当教員から

総合政策学 加茂 具樹 (総合政策学部長・教授)

環境情報学 一ノ瀬 友博 (環境情報学部長・教授)

心身ウェルネス 森 さち子 (総合政策学部教授)

体育 加藤 貴昭 (環境情報学部教授)

情報技術基礎科目 服部 隆志 (環境情報学部教授)

16 世界への窓を言語でひらく -言語コミュニケーション科目-

高木 丈也 (総合政策学部専任講師)

18 **授業取材記** 柔道からひもとくSFCの体育

体育「柔道」レポート

谷本 歩実 (総合政策学部非常勤講師)

20 変革の礎をつくる数理の基礎 -データサイエンス科目-

巴山 竜来 (環境情報学部准教授)

22 変わりゆく情報教育の中で -情報技術基礎科目-

服部 隆志 (環境情報学部教授)

24 境界を超えて広がる学び -看護医療学部の授業科目-

田口 敦子 (看護医療学部教授)

27 教えて! あなたの〈必修〉授業

連載

32 贈る言葉

No. 20 金井 昭夫 (政策・メディア研究科教授)

No. 21 桑原 武夫 (総合政策学部教授)

No. 22 巖 網林 (環境情報学部教授)

No. 23 柳町 功 (総合政策学部教授)

No. 24 小池 智子 (看護医療学部准教授)

No. 25 野末 聖香 (看護医療学部教授)

39 SFC万学博覧会取材記

42 相磯秀夫先生を偲んで -冒険の号砲を鳴らした師への誓い

村井 純 (慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート特別特区特任教授 / 慶應義塾大学名誉教授)

44 編集後記

特集

学びの核の現在地

p. 4 カリキュラム解説

p. 6 寄稿企画 必修5科目の担当教員から

加茂 具樹（総合政策学部長・教授） 一ノ瀬 友博（環境情報学部長・教授）
森 さち子（総合政策学部教授） 加藤 貴昭（環境情報学部教授）
服部 隆志（環境情報学部教授）

p. 16 世界への窓を言語でひらく -言語コミュニケーション科目-
高木 丈也（総合政策学部専任講師）

p. 18 授業取材記 柔道からひもとくSFCの体育
体育「柔道」レポート 谷本 歩実（総合政策学部非常勤講師）

p. 20 変革の礎をつくる数理の基礎 -データサイエンス科目-
巴山 竜来（環境情報学部准教授）

p. 22 変わりゆく情報教育の中で -情報技術基礎科目-
服部 隆志（環境情報学部教授）

p. 24 境界を超えて広がる学び -看護医療学部の授業科目-
田口 敦子（看護医療学部教授）

p. 27 教えて！あなたの〈必修〉授業

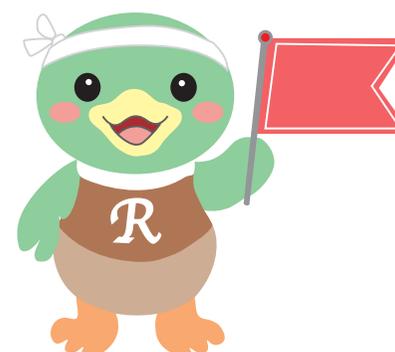
大学での学びの骨格となるもの——それがカリキュラムだ。

自由度の高い学びを特徴とする総合政策学部と環境情報学部にも、必修科目を含むカリキュラムは存在する。看護医療学部は必修科目は多いものの、その構成には独自の色が反映されているはずだ。

2025年に総合政策学部・環境情報学部は開設35年を迎え、2026年には看護医療学部が開設25周年を迎える。最先端のキャンパスとして歩み始めたSFCも、短くない時間を積み重ねてきた。

今、私たちがここで学ぶべきことをもう一度考えよう。

授業科目から探る、学びの核の現在地。



情報技術基礎科目

コンピュータやインターネットを活用した研究や取り組みに応用可能なプログラミングの基礎を学ぶ。原則、クラスごとに全員が履修する「情報基礎1」をはじめとして、三つのレベルに分けられた5種類の授業が開講されており、第3学年への進級要件として計4単位以上の修得が定められている。

▶ P. 6 寄稿企画 必修5科目の担当教員から

▶ P. 22 変わりゆく情報教育の中で－情報技術基礎科目－

言語コミュニケーション科目

実践的な学習形態を中心とした科目で、研究での活用や、外国語を用いた自己発信が可能なレベルの外国語能力の獲得を目指す。両学部の学生に対して、一定の条件のもと、計8単位以上の修得が第3学年への進級要件として定められている。

▶ P. 16 世界への窓を言語でひらく－言語コミュニケーション科目－

データサイエンス科目

統計科学・数理科学の学習を通じて、様々な分野に応用可能な基礎技法の習得を目指す。基礎的な内容を扱う「データサイエンス1」と応用的な内容を扱う「データサイエンス2」に分けられており、各2単位以上の修得が第3学年への進級要件だ。

▶ P. 20 変革の礎をつくる数理の基礎－データサイエンス科目－

看護医療学部

看護医療学部は、2001年に慶應義塾大学の9番目の学部として設立された。人間・社会科学領域、健康科学領域、看護科学領域、統合領域の四つの領域からなるカリキュラムは、国家資格試験の受験資格取得を見据えた必修科目が大きな割合を占める構成となっている。一方で、学生が自身の関心に合わせて設定したテーマのもと、研究計画から実践、総括までを行う選択科目「プロジェクト」や、各国の医療現場を実際に経験しながら学ぶ海外研修科目なども設置されている。

また、看護医療学部の学生は湘南藤沢キャンパスと信濃町キャンパスの二つで学生生活を送る。グループアプローチによる患者中心の医療実践教育として、医学部や薬学部の学生とともに学ぶ三学部合同カリキュラムも実施されている。このように、他学部の学生の近くで過ごす機会も多く、湘南藤沢キャンパスでは、総合政策学部・環境情報学部の授業も履修可能だ。

▶ P. 24 境界を超えて広がる学び－看護医療学部の授業科目－

カリキュラム解説

総合政策学部・環境情報学部

◎「必修」をひもとく

開設から35年の間に、総合政策学部と環境情報学部は計6回のカリキュラム改正を重ねてきた。現在のカリキュラムは2014年度に制定された「14学則」に基づくもので、4学期制の導入、クラス重視などの特徴を持つ。すでに10年以上にわたって運用されており、SFCの歴史の中では特に息の長いカリキュラムだ。

SFCの学びの中心には「研究会」「卒業プロジェクト」がある。それらの土台となっているのが、学年による履修制限のない「基盤科目」と「先端科目」だ。特に基盤科目では、研究を遂行するために欠かせない言語や思考法、技能を身に付けることが目指されている。この科目には、必修あるいは選択必修として位置づけられているものがあり、学生自らの関心領域に応じた研究基盤を作るための導入として、大きな役割を持っている。

◎必修・選択必修科目の種類

総合政策学・環境情報学

学生の研究プロジェクトの基盤を構築する科目で、第2学年への進級要件として各学部の学生の履修が必須となっている。様々な教員、学生が複数の領域を横断しながら取り組んできた総合政策学・環境情報学の営みについて学ぶ。

▶ P. 6 寄稿企画 必修5科目の担当教員から

ウェルネス科目

学生の心身の健康を図るとともに、自己開発教育の一環という側面も持つ科目群。

「心身ウェルネス」では、オムニバス形式の授業でヘルスリテラシーを養う。運動実践の授業としては、「体育1」「体育2」「体育3」が必修科目として設置されている。基本的にクラスごとに開講される「体育1」を1学期間履修し、「体育2」以降は、幅広いジャンルの種目の中から、学生自身が授業を選んで履修していく。第2学年への進級要件として「心身ウェルネス」「体育1」の修得が、第4学年への進級要件として「体育2」「体育3」の修得が定められている。

▶ P. 6 寄稿企画 必修5科目の担当教員から

▶ P. 18 柔道からひもとくSFCの体育

体育

加藤 貴昭先生 より

「総合政策学」はまさにSFCから発信された学問領域であり、今や他の大学でも同じ名前を目にすることがあります。既存の学問を学びながら、新たな自分を発見する点においては、「体育1」の理念である「気づく」ことに共通していると思います。そして30年後の自身について「探し、深め、伝え」ていくことを期待しています。

環境情報学

一ノ瀬 友博先生 より

「総合政策学」は、環境情報学部における「環境情報学」と同じ位置づけの科目です。いずれも1単位なので、所属学部にかかわらず両方の科目を履修する学生が多いと思います。そして両方履修すると、双子の学部といいながらこの2つの科目が全く異なる内容であることに驚くかもしれません。その違いもSFCらしさかと思っています。

情報技術基礎科目

服部 隆志先生 より

「30年後の将来を考えて、何を学ぶか」というのは大変意義深い課題だと思います。30年後の未来は誰にもわからないでしょうが、今すぐ役に立つことを勉強するのではなく、遠い将来を見据えて何が本質的に重要なかを考えることが大学での学びの本質のような気がします。

心身ウエルネス

森 さち子先生 より

総合政策学部の学生は、問題意識をしっかりと内在しています。そのような学生が入学直後に、総合政策学部さらにはSFCが内包する多様な専門領域に、それぞれのエキスパートによって誘われていく。その体験に「卒啄同時^{そつたくどうじ}」の現象をイメージします。さまざまな学問の世界に触れることで、自分なりのアプローチに目覚める、まさに「総合政策学」で絶好の機会を得ることでしょう。



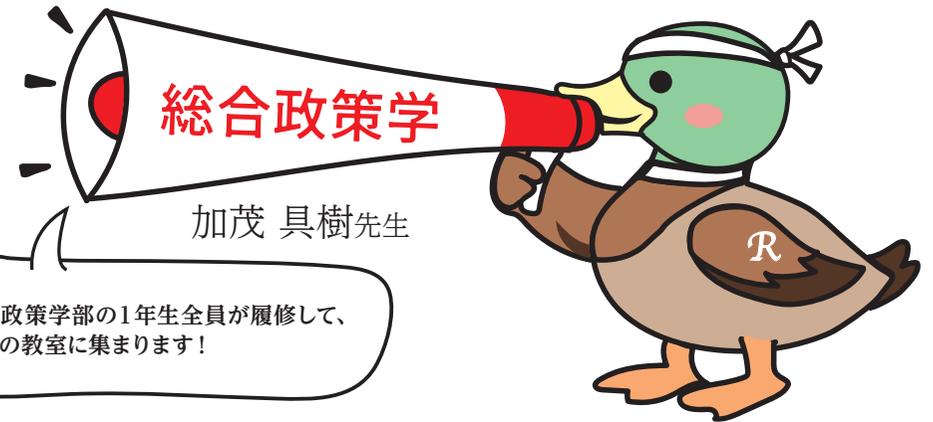
加茂 具樹

(かも・ともき)

総合政策学部長・教授。
専門は、現代中国政治外交、比較政治、東アジア国際関係。

寄稿企画 必修5科目の担当教員から

まずは、総合政策学部・環境情報学部の全学生が履修する5科目を押さえておこう。自由に学びを組み立てられるSFCで、これらの科目が必修なのはなぜだろう。授業にはどんな工夫が凝らされているのだろう。学生たちの様子は？ それぞれの科目を担当される先生方に、編集部が知りたいことを尋ねてみた。(担当：藤井美来・松本こころ・宮田智華)



加茂 具樹先生

総合政策学部の1年生全員が履修して、一つの教室に集まります！

Q1. 毎回異なる先生が授業を担当されるのはなぜですか。また、それぞれの回の繋がりについて教えてください。

「総合政策学」の目的の一つは、総合政策学部、そしてSFCに広がる多種多様な学問領域の存在を知ってもらうことにあります。いま一つには、履修者が関心を抱き、また追究したいと考えている学問領域以外にも、様々な魅力的な領域があることを知ってもらうことです。学生が、無意識に閉じこもってしまっている「殻」を破る機会を提供したいと思っています。

Q2. どのような最終課題が設けられていますか。また、学生たちはどのような姿勢でその課題に取り組んでいますか。

履修者全体を5人ほどのグループに分け、「30年後の将来を考えて、あなたたちはSFCで何を学ぶのか」をグループ毎に考え、報告してもらいます。「30年後」の未来を想像することは難しそうです。悩んでいます。しかし学生一人一人の関心が異なるため、多様な未来像が示されていて、私にとっては興味深いです。

Q3. 多種多様な専門領域へと進んでいく学生たちにとって、必修科目は、SFC生の唯一の共通基盤と言えるかもしれません。「総合政策学」の一連の講義を通して学生にどのようなことを伝えたいですか。

SFCは、自らの学問を「既存の学問分野を解体し、実践を通して21世紀の実学を作り上げる」と唱え、「問題発見・問題解決」型の教育研究を展開していますから、「イシューを考えること」を大切にしています。これは学びの姿勢としてとても斬新で、魅力的ですが、同時に大切なことは既存の学問分野(ディシプリン)です。イシューもディシプリンも大切です。ディシプリンを忘れずに。

Q4. 今後、授業内で新たに組み組んでみたい試みはありますか。

「総合政策学」は、自分とは異なる関心を持つ学生とのネットワーキングをする機会になって欲しいと思っています。ですから、教場から離れた空間での実習をする機会を設けることができたらよいな、と思っています。

体育

加藤 貴昭先生 より

「環境情報学」ではSFCの理念を学び、各領域の学問を知ることができると思いますが、特に田植えや稲刈りは、実際に身体を使う体験から学ぶという点で、体育科目と共通していると思います。自らの身体を通して、はじめて「環境情報」が知覚できるのだと思いますので、ぜひ積極的に身体を活用してもらいたいと思います。

総合政策学

加茂 具樹先生 より

学部とキャンパスに広がる学問領域の多様性（学際性）を理解し、そこでより豊かな学びを得て、大きく発展させる（研究、社会実装するため）の仲間づくりのための機会を提供する。「環境情報学」も「総合政策学」も、その講義の意図は同じですね。そしてこの科目の主担当である学部長としても悩みも同じだな、ということを一ノ瀬先生のメッセージを見て感じました。「総合政策学」と「環境情報学」という講義と、SFCに広がる各学問領域（個別の授業）との「はしわたし」をどうするか、ということなのです。

情報技術基礎科目

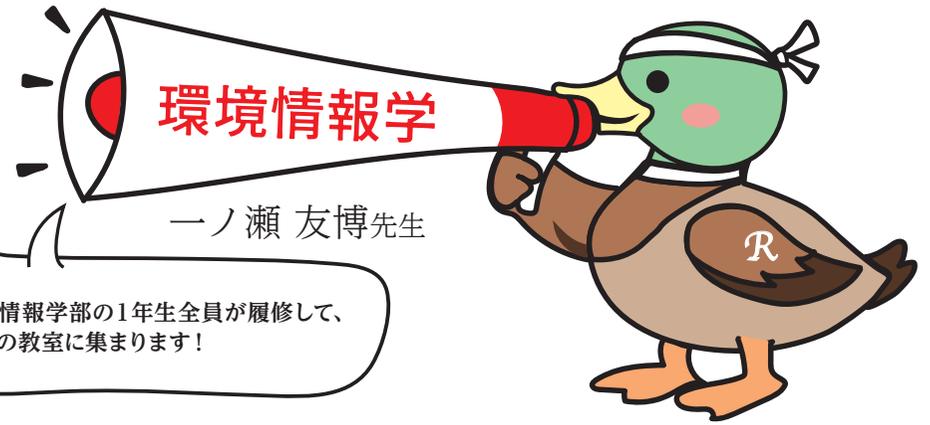
服部 隆志先生 より

グループワークは重要だと思います。新型コロナ以来オンラインで作業することが増え、さらに最近では誰かに聞くよりも生成AIに聞いた方が早いという風潮もありますが、大学が提供する価値の一つは、他者とのコミュニケーションを通じて自分が成長していく場を提供することではないでしょうか。

心身ウエルネス

森 さち子先生 より

環境情報学とは一体どういう学問を意味するのか。環境情報学部を目指して入学してきた学生でさえ、意外に環境情報学の一領域しか目に入っていなかった可能性もあるでしょう。その研究領域は、SFCでユニークに広がっています。田植えや稲刈り、得難い経験です。もし許されることでしたら、教員である私も駆り出されてみたい！という気持ちになります。



Q1. 毎回異なる先生が授業を担当されるのはなぜですか。また、それぞれの回の繋がりについて教えてください。

「環境情報学」では、初回に一ノ瀬が「環境情報学とは何か」を説明し、続いて2名ずつの教員が環境情報学部の5つの研究領域（先端情報システム、先端領域デザイン、先端生命科学、環境デザイン、人間環境科学）を紹介しています。このようにすることにより、環境情報学部が扱う学問領域の範囲を入学した直後に理解してもらうことを意図しています。加えて、1回はSFCに隣接する御所見地域で田植えや稲刈りを経験してもらい、地域への理解も深めてもらいます。

Q2. どのような最終課題が設けられていますか。また、学生たちはどのような姿勢でその課題に取り組んでいますか。

最終課題ではなく、それぞれの授業ごとに課題を設定しています。適宜グループワークを取り入れていて、それは最初の授業で知り合いを増やしてもらいたいという意図もあります。田植えや稲刈りの回でも課題は設定されますが、これら授業を通して学生間のコミュニケーションを促したいと考えています。グループワークは、学生たちは楽しんで取り組んでいるように見受けられますし、田植えや稲刈りは思った以上に満足度が高いようです。

Q3. 多種多様な専門領域へと進んでいく学生たちにとって、必修科目は、SFC生の唯一の共通基盤と言えるかもしれません。「環境情報学」の一連の講義を通して学生にどのようなことを伝えたいですか。

環境情報学部が扱う研究領域は実に幅広いものです。これは環境情報学部・総合政策学部が設置された35年前に設定された問題発見・問題解決というコンセプトを実現するために、必然的に求められることであると思います。既存の大学では、学年が進行すると研究領域はより細分化されていきます。しかし、環境情報学部・総合政策学部では研究を深化させるのに並行して、領域を跨がる学際性を重視し、更に社会実装につなげて欲しいと思っています。

Q4. 今後、授業内で新たに組み込んでみたい試みはありますか。

授業で取り組んでみたい新しいことは全ての教員が常に考えています。それはお楽しみとさせてもらえればと思います。学部長という立場としては、この「環境情報学」という授業をとって、どれかの研究領域に興味を持ったら、さらにその研究領域について学ぶためのつなぎが必要かと思っています。もちろん、それぞれの領域の個別の授業は存在するのですが、「環境情報学」とそれらの授業の間のギャップが大きいかと感じています。



一ノ瀬 友博
(いちのせ・ともひろ)

環境情報学部長・教授。
専門は、景観生態学、環境学、農村計画学。

体育

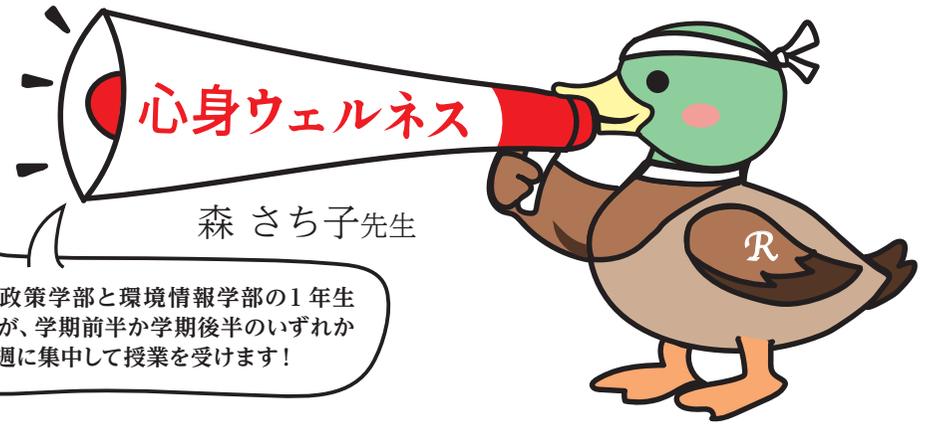
加藤 貴昭先生 より

「心身ウェルネス」は、「体育1」と併せて初年度の必修として重要な科目の位置づけとなっていますが、授業を通じて「身体健康精神活発」の考えを学び、自らが実践することを期待しています。さらに充実した大学生活を送れるよう、保健部門とも連携し、心身ウェルネスセンターとしてもサポートしていきたいと思います。

総合政策学

加茂 具樹先生 より

SFCという場所は、主体的に、能動的に、そして領域横断的に物事に取り組むことを期待しています。だからSFCで生活することって、思った以上にハードワークです。SFCの時間を、より豊かに活動するために、自らの心身の状況と常に対話する習慣を養うことは重要だ、という森先生のご指摘、おっしゃるとおりだと思います。これって、学生だけでなく教員にとっても大切なことです。



森 さち子先生

総合政策学部と環境情報学部の1年生全員が、学期前半か学期後半のいずれかの7週に集中して授業を受けます!

Q1. 科目の意義や狙いは何ですか。

本講義では、心身ともに健康な生活を送るための基礎知識を体得し、自身の健康上の問題をいち早く発見できるよう、自分の健康状態についてより深く自覚し、考える習慣を身につけられることを目標としています。留学生・帰国生のための英語クラス(GIGA)では、海外経験が長く、日本での生活に不慣れな学生を対象に、グループ体験を取り入れながら学生間の交流も大切にしています。

Q2. 毎回異なる先生が授業を担当されるのはなぜですか。また、それぞれの回の繋がりについて教えてください。

それぞれに専門領域をもつ臨床心理士や医師が自らの臨床経験を生かして、担当することで、単なる知識にとどまらない、人生に深く関わる「臨床の知」を伝えることができます。学生相談のカウンセラーも、担当者となっていることは、1年生の皆さんの学生相談利用の敷居を低くしているようです。複数講師による広がりを持った講義は、最終的には心身の健康を軸としてまとまりをもって学生の意識を高めるようになっています。

Q3. どのような最終課題が設けられていますか。また、その課題にはどのような思いが込められていますか。

これまで、以下のようなテーマを最終課題(1000字程度)としてきました。7回の講義を踏まえて、「『真の健康』とは」、「『豊かに生きる』とは」、「『心身ウェルネス』の講義で学んだヘルスリテラシーをさらに高めるには、どのようなことが考えられますか」などです。講義で得た知識を自分なりに、どのように咀嚼し、これからどのように生かしていくか、大学1年生の時期に内面化し、言語化しておいてほしいという期待が込められています。

Q4. 学生を巡る健康環境は年々変化し続けていますが、授業が開講されてから本講義のシラバスはどのように変わってきた/変わっていくのでしょうか。

SFC開設時の本講義の前身は、他学部と共通の「保健衛生」でしたが、数年後に「心身ウェルネス」という名称に変わりました。その背景に、SFCオリジナルの心身ウェルネスセンターの存在があります。このセンターは、医学・心理・体育が3本柱となって、有機的に機能しながら、学生の心身の状況とその時代的変遷を見守っています。ここでキャッチされた学生の心身の状況は、今後も「心身ウェルネス」の講義内容に反映されていくでしょう。

情報技術基礎科目

服部 隆志先生 より

「保健衛生」から「心身ウェルネス」へ名称が変わったことには、大きな意味があるように感じられます。単に病気にならないということではなく、「真の健康」や「豊かに生きる」ということについて考える授業があることは、学生の将来の生き方にも大きな影響があると思います。

環境情報学

一ノ瀬 友博先生 より

「心身ウェルネス」も通常の科目とはおもむきが異なると思います。森さち子先生が書かれているように、大学で心身ともに健康な生活を送るために重要な科目となります。当たり前で簡単なことのように聞こえますが、これは学生の皆さんにとってとても大切なことで、勉強や研究、そして課外活動もその基盤があって初めて可能になります。



森 さち子

(もり・さちこ)

総合政策学部教授。
専門は、臨床心理学、精神分析学。

心身ウエルネス

森 さち子先生 より

SFCでは、体育必修の慶應の伝統が大切に保たれています。私は、全キャンパス体育必修時代の慶應生でしたが、大学に入って初めて体育の意義を実感した一人でした。大学に入ってもなぜ、SFCでは体育の授業を重視しているか、きっと実感する時が来るでしょう。細やかな配慮をしながらコミュニケーションに優れた教員、ある種目を高く極めた教員たちとの出会いを楽しんでください。

総合政策学

加茂 具樹先生 より

総環のカリキュラムがSFC体育を選択必修科目としているのはなぜか。そんなことを考えたことがあります。それはSFCの体育が、SFCの教育体系の基盤であるということのメッセージなんですよ。SFC体育は、単なる身体運動能力の向上を目的とする科目というのではなく、「気づく、探す、深める、伝える」という理念を掲げた対リーダーシップ能力の強化を教育理念に位置付けている、という加藤先生の指摘は重要だなと思います。

情報技術基礎科目

服部 隆志先生 より

体育というと単に体を鍛えるだけと思いがちなのですが、メタな認知やスキルを養う授業内容になっているのは感心します。授業を振り返って可視化・言語化することはあらゆる分野で有用なスキルですし、インクルーシブ体験は他者の立場を想像する能力を身につけることができ、大変有意義だと思います。

環境情報学

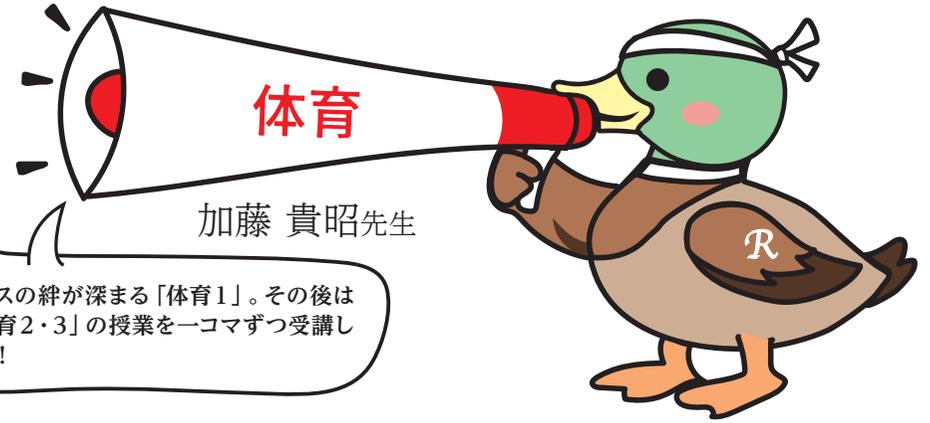
一ノ瀬 友博先生 より

環境情報学部・総合政策学部では、体育を必修科目として位置付けています。そしてその豊かなバリエーションに驚くのではないのでしょうか。「体育」という科目名からは想像できないようなプログラムもあります。実は、体育は私たち教職員にも開かれていて、皆さんが受けているプログラムの一部を教職員も楽しんでいるのですよ。



加藤 貴昭
(かとう・たかあき)

環境情報学部教授。
専門は、人間工学、スポーツ心理学、
熟達化、eスポーツ。



Q1. 科目の意義や狙いは何ですか。

SFC体育は、福澤先生の「身体健康精神活潑」という思想と、SFCの理念である問題発見および問題解決の考えを基に、「気づく・探す・深める・伝える」を基本理念として掲げています。他者との交流を伴う授業を通じて自身の心や身体の気づきを促し、多様な運動体験の中で自分なりの関心や課題を探します。そしてその課題に向き合いながら学びを深め、得られた経験や知識を後輩や社会へ伝えることを目指しています。

Q2. 最終課題や、他の学生と共有することもできる「体育ノート」の設定には、どのような意図がありますか。

体育ノートは各授業を振り返る方法の一つで、自身の心身の状態を客観的に把握し、成長を促す目的があります。ライフスキル調査や目標設定などもありますが、自分でも見えにくい部分を可視化することで、自分の特徴を知る機会を提供しています。最終レポートでは科目ごとに自身が取り組んだ種目を総括し、身体運動で獲得した知を言語化し、大学での身体運動経験が社会生活でも応用されることを期待しています。

Q3. 「体育1」では、クラスのメンバーと毎週1回体育の授業を受けることになっています。大学生が毎週同じメンバーで身体を動かす意義は何ですか。また、習熟度別ではなく、様々なレベルの学生が集うことにはどのような意義がありますか。

「体育1」はクラス単位にて、多様な身体運動体験と活発な対人コミュニケーションを促し、多様な集団の中で個を発見するための視点を養うことを目的としています。様々な背景を持つ学生同士が交流を深め、多様性を体感する機会となります。また、車いすやブラインドウォークを含むインクルーシブ体験プログラムなどを通じ、障がいの有無に壁を作らない本来の意味でのバリアフリーを体験し、さらなる人間的成熟を促します。

Q4. 「体育1」の授業を履修している学生たちの様子はいかがでしょう。学生に好評な取り組みや競技があれば教えてください。

「体育1」の授業開始時は人見知りや運動への苦手意識を持つ学生も多いのですが、多様な授業、学生、教員、SAとの温かな交流を通じて自身の心身の変化を実感し、終盤では自分にとっての体育の楽しみ方を発見しようとする学生が増えているように思います。インクルーシブ体験プログラムも好評ですし、「体育2」以降ではオリンピックなど本物の先生方から直接指導を受ける機会もあるので、思わぬ自分を発見し、さらに深く学ぶことができると思います。

心身ウエルネス

森 さち子先生 より

環境情報学部で志願して入学したものの、必修である情報技術基礎科目を落とすのではと冷や冷やしている学生の声をたまに聞くことがあります。プログラミングの技術を身につける習熟度の差において、S Aの占める役割が大きいことは知っていましたが、受講生とS Aの相互交流に、まさに半学半教の精神が息づいているのですね。実習風景を福澤先生が興味深く眺める姿が浮かびました。

総合政策学

加茂 具樹先生 より

情報技術基礎科目で知り合った友人は、今から思うと、S F Cの生活のなかで中核にあるように思います。私も卒業して30年が過ぎても「情基礎」で知り合った友人とつながっています。服部先生のメッセージを見て、そういうS F Cの学修と生活の基幹を担う科目である情報技術基礎科目の運営の難しさを再認識しました。「技術」の限界やリスクを推測し、技術が引き起こす社会問題への対応を理解することの意義は、その通りだと思います。これまでの歴史を振り返れば、科学技術の変化が、人々の生活の変化を促し、社会構造、政治構造の変化を促してきたのですから。



服部 隆志先生

クラスで助け合いながら取り組む「情報基礎1」。「情報基礎2」では個人で簡単なゲーム開発に挑戦します!

Q1. 「情報基礎2」の履修後、学生はどのようなことをどのくらい習得した状態であることが目標とされていますか。

S F Cには多様な学生がいますから、学生によって習得すべき目標は異なると考えています。技術系の道に進む学生は、基礎的なプログラミング技術を身につけ、より高度なプログラミング学習の準備や、専門科目に必要なプログラムの作成ができるようになることが目標です。それ以外の学生は、ソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、企画・設計・実装・改善といったプロジェクト管理を体験することが目標です。

Q2. 授業中の学生の様子はいかがですか。

ほとんどの学生は真面目に演習に取り組んでいます。S F C開設当初はコンピュータがまだ珍しかったため、コンピュータを使った演習には独特の熱気がありましたが、最近はすっかり日用品になってしまったので、そのような熱気は薄れてしまったように感じます。また、一部の学生ですが、他の学生や生成A Iから得た解答を、自分で理解せずにそのまま提出して事足りるとすることがあるのは残念に思います。

Q3. 「情報基礎」は必修科目の中でもS Aの募集が盛んな科目ですが、学生同士が教え合う仕組みを導入したことによる効果があれば教えてください。

プログラミング学習では個別のサポートが重要ですが、教員だけではどうしても手が回らないため、S Aの存在は必要不可欠です。さらに、教員には質問しにくいと感じる学生もいますが、S Aには気軽に質問できることが多く、S Aは教員よりも大きな役割を担うこともあります。また、S Aにとっても、他の人に教えることで自身の理解を深める効果があり、慶應の半学半教の伝統を体現していると言えます。

Q4. プログラミングやネットワークの知識など、情報技術基礎科目で学んだことは、学生の学びや生活にどのように役立っていくのでしょうか。

情報技術に限らず、基礎的な科学技術について学校で学んだことを社会の中で直接使うことは、その分野の専門家にならない限り、あまり無いと言えます。しかし、技術の基礎について知っておくことは、その技術の限界やリスクを推測することを可能にし、技術が引き起こす社会的問題への対応に役立つのではないかと思います。その意味で、今後は情報技術基礎科目でA Iについて学ぶことが必要になってくるでしょう。

体育

加藤 貴昭先生 より

私が学生だった90年代当初、情報科目はまさにS F Cらしさを象徴する授業であり、最先端に触れられることが大きな魅力でした。情報技術は今もなお加速度的に進化していますが、その変化の中で何を学び、どのように活用していくのか、自らの視点で問題発見・問題解決へとつなげていく力を養ってほしいと思います。

環境情報学

一ノ瀬 友博先生 より

「情報基礎」は、日本の情報科学の先頭を走ってきた環境情報学部にとってまさに基盤となる科目です。かつてはどの学生もプログラミングができるという大学は特別な存在でした。しかし、生成A Iの登場によりプログラミング教育のあり方が急速に変わりつつあります。とは言え、技術の基礎的な理解は必要不可欠ですので、しっかり学んでください。



服部 隆志
(はっとり・たかし)

環境情報学部教授。
専門は計算機科学。

世界への窓を言語でひらく

-言語コミュニケーション科目-

SFCでは開設当初より、「視野を広げる窓」として言語を学習することが重視されてきた。現行のカリキュラムが10年以上運用される中、言語コミュニケーション科目はどのような役割を担い、進化してきたのか。SFCの言語教育を取りまとめる委員会で委員長を務める高木丈也先生に、詳しくお話を伺った。



高木 丈也

●必修単位数の変遷と研究のための「足腰」
—SFC開設当初の「九〇学則」では、言語コミュニケーション科目（以下、言語科目）の必修取得単位数は十六単位でした。現行の「二四学則」では、八単位です。必修取得単位数が変わるに当たって、どのような議論があったのでしょうか。

「九〇学則」から「二四学則」に至るまで、SFCでは試行錯誤を重ねられてきました。現行の「二四学則」の重要な点の一つは、総合政策学部と環境情報学部のいずれにおいても、言語科目の必修単位数が同じであるという点です。実は、「二四学則」の一つ前の学則においては、環境情報学部の方が言語科目の必修単位数が少ない時期がありました。「二四学則」で必修単位数を統一した背景には、総合政策学部の学生であれば環境情報学部の学生であれ、研究をするための「足腰」として言語科目の修得が必要不可欠だという

考えがあります。

必修単位数は減少しましたが、それはカリキュラム全体の質が低下したことを意味するわけではありませぬ。一年次に堅固とした「足腰」を鍛えたら、それに付随するコンテンツ科目やスキル科目でより高度な言語能力を取得したり、研究会で言語を運用するトレーニングをしたりする環境がSFCには整っています。このように、言語科目は、学生が言語を手段として活用し、その先の広い世界に進んでいくための土台づくりとして位置づけられています。

●世界を見る窓としての特異な言語科目体系

—マレー・インドネシア語やアラビア語など、他大学ではあまり学ぶことのできない言語が取り入れられている理由を教えてください。

マレー・インドネシア語とアラビア語は、いずれも多くの国や地域で公用語として使われていま

ていくとしたら、どのような改正があり得るのでしょうか。

基本的な理念である「研究のための足腰としての言語」という点はきつと変わらないでしょう。しかし、言語教育は時代に合わせ変化していくべきであると思えます。場合によっては、社会の変化に応じて、新たな言語を視野に入れながらSFCの言語教育の在り方を考える必要も出てくるかもしれません。例えば、日本で在留外国人が増えている現状を踏まえれば、ベトナム語やネパール語の重要性は増しているはずで

す。また、アイヌ語や琉球語は、日本国内での言語の多様性の一面を示しています。いずれにせよ、言語が常に研究や社会の根底を成しており、絶えずそれと連動しているという点が重要です。

(構成：服部琴夏・高坂真優佳)

す。したがって、世界的な秩序を考えると、SFCの言語科目として取り入れられていても何ら不思議はない言語圏かつ文化圏です。また、流動的で予測不可能な社会において、現地の言語で書かれた一次資料は、研究の際の重要なツールとなります。学生はそれらを分析し、研究の際に活用していきます。ある学生は現地に住みながらフィールドワークを通して研究し、またある学生はその言語で書かれた一次資料に基づくディスカッションを行っています。単なる会話の練習だけではなく、その言語を使う人々の息遣いや手触りを知る研究と連動していることがSFCにおける言語学習の大きな特徴です。

●アカデミックなコミュニティを支える日本語教育の特徴

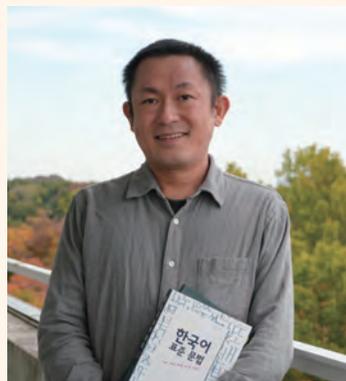
—主に留学生が履修する日本語科目には、他大学で行われている留学生向けの日本語教育と比べてどのような特徴がありますか。

一つは、日本語研究室が学部内に設置されているという点です。多くの大学では、日本語教育センターのような組織が、学部とは別に独立した形で存在しています。それに対してSFCでは、開講されている十一言語の科目の一つとして日本語が組み込まれていいます。言語を研究と連動させているSFCの理念に基づき、日本語は研究活動と密接に関わる科目として明確に位置づけられているのです。

もう一つは、日本語教育の目的そのものです。単なる会話力の向上や検定試験の合格を目標とした教育ではなく、学術的な世界に入るための日本語教育に主眼が置かれています。具体的には、口頭発表や論文執筆といった、研究活動に直結する能力の育成です。以上二点は、SFCにおける日本語教育の大きな特徴です。

●時代の変化に対応する言語カリキュラムの未来

—今後カリキュラムを改正し



高木 丈也
(たかぎ・たけや)

総合政策学部専任講師。
専門は、朝鮮語学、方言学、談話分析。

授業取材記

柔道からひもとくSFCの**体育**

谷本 歩実
(たにもと・あゆみ)

アテネ五輪(2004年)と北京五輪(2008年)柔道女子で金メダルを獲得。SFCでは、2024年度から総合政策学部非常勤講師として柔道の授業を担当。

他の教員とも議論を重ねています。今後もSFCならではの柔道の形を追求していきたいです。
(構成・高坂真優佳・服部琴夏)

注・嘉納治五郎(一八六〇―一九三八)は、「心身の力を一番有効に働かせる」「精力善用」、自他ともに社会全体が栄えていく「自他共栄」という理念を通して、社会に貢献できる人間の育成を目指した。(講道館「柔道とは」講道館ウェブサイト△<https://kdkjudo.org/>柔道とは▽最終閲覧日二〇二六年一月六日)

体育「柔道」レポート

柔道の授業はどのように行われているのだろうか。本誌編集部員Tが受講生として授業に参加した。

①受け身の練習を兼ねたウォーミングアップ



▶しゃがむ=グー、足を前後に開く=チョキ、足を左右に開く=パーとして、4人でジャンケンをします。負けた人が後方受け身か横受け身を行います。

②前回り受け身の練習



▶バランスボールを使いながら行くと、怖さが半減し、イメージも掴みやすくなって、スムーズに受け身の練習ができます。

③受け身の基本動作の確認



▶二人一組での練習です。複雑な動きのため最初は戸惑いましたが、手足をどのように動かせばよいのか、先生が丁寧に教えてくれます。

④一本背負い投げの風景



▶安全を考慮して、衝撃を吸収する分厚いマットを敷きます。そのため、初心者でも恐怖心を抱かずに、思い切って技を練習することができます。

⑤足運びの確認



▶リズムを意識すると、テンポよくスムーズに動くことができます。四肢を連動させる練習であるため、基本の動作も身に付けられる非常に合理的なトレーニングだと感じました。

⑥三人一組で行うアクティビティ



▶ゲーム的な要素を取り入れた練習です。帯の後ろに挟んだオレンジ色の布を取られたら負けです。動きの中から柔道の身体の使い方を実践的に体験します。

⑦授業終盤の試合の様子



▶授業の締めくくりに、実際の形式に則した組手練習を行います。授業の序盤にはできなかったことが、90分の練習の後にはできるようになっていて、確実に上達していることを実感できます。



▶柔道の授業のSAを務める島津崇士さん。実は島津さん、この授業を通して柔道の腕を上げ、現在は黒帯取得を目指しているそうです。



谷本 歩実

自由なカリキュラムを掲げるSFCで、体育は今もなお必修科目としての重要な位置づけにある。今回は、数ある体育科目の中でも「柔道」に焦点を当て、アテネ・北京五輪で金メダルを獲得した講師の谷本歩実先生にお話を伺った。

●柔道を通じた人間教育とSFCの学生の特質
——SFCで柔道を教えるに当たって、どのようなことを大切にされていますか。

柔道を楽しむこと、そして学生が上達を感じることを最も大切にしています。私自身、オリンピックのプレッシャーの中で支えになったのは「楽しい」や「好き」という純粋な気持ちでした。「楽しい授業だったな」と感じて帰ってもらうためにも、授業では皆さんのやりたいことを尊重するようにしています。また、柔道の創始者である嘉納治五郎師範が掲げた「柔道を通して社会に貢献できる人間を育てる」という理念(注)も大切にしています。単に技を習得するだけでなく、お互いに分からないことを教え合う過程から「思いやり」や「礼儀」を学ぶ場にしたかと考えています。また、SFCの学生は、与えられた課題を自分でやり遂げる力が非常に高いです。最後には部活動のような一体感が生まれるほど、未経験者

でも一時間半の授業で柔道を満喫することができています。SFCの学生の特徴であるこの完遂力を、柔道を通してさらに伸ばしてもらいたいです。

●SFCが今、武道を大切にしている理由
——必修科目である体育に柔道が含まれていることを、どのようにお考えですか。

二〇〇〇年代後半に、中学校で「武道・ダンス必修化」が進められました。その後の学校教育では武道の存在感が薄れつつあります。そうした中でもSFCの体育は今も武道を非常に大切にしています。柔道以外に、空手や剣道、合気道の授業も開講されています。学生の皆さんにはぜひともこの機会を活用してほしいですね。また、将来学生たちが海外へ出た際に、SFCで得た日本文化としての武道の経験は自分自身の強みや誇りになるはずです。

武道の形が時代と共に変わる中で、今の学生に何を伝えるべきか、

変革の礎をつくる**数理**の基礎

—データサイエンス科目—

SFCでは、統計科学や数理科学の基礎を学ぶデータサイエンス科目を必修として位置づけている。生成AIが普及し、単純な問題への答えを簡単にAIに任せてしまえる今、なぜ数学を学ぶことが必要なのだろうか。SFCにおけるデータサイエンス科目の歴史と設計思想、そしてAI社会の課題を探るべく、データサイエンス科目のカリキュラムを取りまとめる巴山竜来先生を訪ねた。



巴山 竜来

●なぜ今データサイエンス科目が必要なのか

—SFCにおいて、データサイエンス科目（以下、DS科目）はどのような経緯や目的で設置されているのでしょうか。

SFCは開設当初から「文理融合」「学際的研究」という理念のもと、言語、情報、体育と並んで、数学を重要視してきました。名称の変化はあれど、情報系科目と数学系科目は当初からあり、時代に合わせて再編されてきました。DS科目が必修である理由として、数学が情報系科目を学ぶための土台であることが挙げられます。それに、SFCは数学を必須としないう入学経路もあるため、数学の基礎力が十分でない学生も一定数います。そうした学生の基礎力を底上げする狙いもあります。

と、数学を学ぶ機会は一気に減ります。その結果、数学が新しい技術習得のボトルネックになることが多いです。だからこそ、数学でつまずいて学びの機会を損なわないように必修にしています。いわば「未来への投資」ですね。DS科目をきっかけに数学の楽しさに気付いたら、より深く数学を学べる研究会に進む道も用意されています。

考えなければならぬのは、履修者間に習熟度の差があることです。内容自体は、時間をかけて学べば理解できるように設定しているつもりです。難しいと感じたら積極的に質問して理解を深められるよう、T.A.S.A (Teaching Assistant/Student Assistant) (注1) のサポート体制も比較的に充実しています。多様な教員が多様な科目を開講することで、授業の内容にもバリエーションを持たせています。

●問題の解像度を上げる

—AIが普及しつつある状況の中で、学生はこれからのどのような勉強をしなければならないとお考えですか。

必要な学びは、「どのレベルを目指すか」によります。

AIを単にユーザーとして使うのか、AIを作れる人、AIで社会を設計できる人を目指すのか。単純作業はAIに代替されていくでしょう。しかし、SFCが目指しているのは、AIの仕組みを理解し、そこから新しい価値を生み出せるような人材を育成することです。例えば、AIの使用に関して、現在大きな問題の一つとなっているのが電力使用量です。AIは膨大な電力を消費します。発電所が足りないという議論も出てきているほどです。その解決方法を探ると、AIの内部で行っている計算、とりわけ巨大な線形代数計算に行き着きます。仕組みや技術

を理解すれば、アルゴリズムの改良で計算負荷を軽減し、電力問題を解決する可能性も見えてきます。ユーザー目線だけでなく、技術の視点からも問題を見ることができれば、問題の解像度が上がるのです。大きな技術の発展が起きている今だからこそ、基礎理解の重要度が増してきているのです。そのような観点に立って、新しい解決策が出てくることを期待しています。

—今後、SFCのDS科目はどのように展開していくのでしょうか。

正直に言えば、まだ明確な答えはありません。生成AIにより、DS1 (注2) の授業で扱う問題やレポート課題は高い精度で解けるようになりました。そうした状況で、どのようなカリキュラム設計が最適なのかは、現在議論が続いている大きな課題です。

テクノロジーの進化によって、学問の世界にも大きな変革が起ころうとしています。DS科目では、その進化を活用しつつ、現状にフィットさせる形を模索していきたいと考えています。

(構成・吉仲貴紀)

注1 T.A.S.A…授業運営や学習支援の面で教員のサポートを務める学生のこと。

注2 DS1…データサイエンス科目のうち、基礎的な内容を扱う科目群。線形代数、微分積分、確率、統計基礎の四種類の科目が開講されている。



巴山 竜来
(はやま・たつき)

環境情報学部准教授。
専門は、数学（複素幾何学）、デザイン・アートへの数学の応用。

変わりゆく情報教育の中で -情報技術基礎科目-



服部 隆志

SFCでは人工言語がカリキュラムの大きな軸の一つとして捉えられ、1990年の開設当初から情報教育が重視されてきた。しかし今、情報を取り巻く環境は大きく変化している。最先端の環境から出発したSFCの情報教育は、今の学生たちに何をもたらそうとしているのか。SFCの情報教育に長年携わってこられた服部隆志先生に、これまでの道のりとこれからの展望を伺う。

●教養としての「情報基礎」と研究への足掛かり
——現在、情報技術基礎科目の授業は三つのレベルに分かれています。その意図を教えてください。

三つのうち、最初のレベル1と2に相当する科目が、「情報基礎1」と「情報基礎2」です。これらは原則としてSFCの学生全員が履修します。そうすると、履修者の大半は、将来コンピュータを専門的に勉強するわけではない人たちということになります。そのような人たちに「情報基礎」まで履修してもらうことで体得してほしいのは、これからの社会の常識として必要になる教養レベルの内容と最低限のリテラシーです。ただ、いわゆる「プログラミング的思考」を身に付けるのは簡単なことではありません。自分で問題を適切に設定し、解決のための設計を行う力を習得してほしいと願いつつも、実際にプログラムが動か

なければどうしようもありません。技術的な部分に意識が向きがちなのが課題です。

「情報基礎1」や「情報基礎2」よりも上のレベル3の授業になると、研究会や先端科目などへの橋渡しを意識されています。カリキュラムの変更に応じて、レベル3に相当する科目の数も変わり、専門的かつ多様な授業が設置されてきました。コンピュータサイエンスの基礎を身に付けた上で、レベル3の授業にまで進むと、学生が自分の関心や研究に合った学習内容を選択できるようになります。

●原点を見つめる

——SFCにおける情報教育の出发点には、どのような環境と考えがあったのでしょうか。

SFCでは一九九〇年の開設当初から、新入生全員にプログラミングを教えています。このような

カリキュラムは今でこそ一般的になりつつありますが、大学や大企業の研究所で使用されるようなコンピュータが学生向けに計百六十台設置された環境は、当時の日本では画期的でした。インターネットがまだ一般家庭で使われていなかったため、学生には、コンピュータがどのようなものかということから教えました。

SFCで「情報基礎」が必修であることの背景には、プログラミングを知っていること自体が様々な分野で強みになるという考えがあります。この軸は開設から三十五年が経つ今でも変わりませんが、学ぶ内容は大幅に変える必

要があるという意識を持っています。

●時代の変化に寄せて
——SFCの情報教育のカリキュラムは、これからのどのように展開していくのでしょうか。

今、情報教育を取り巻く環境に二つの大きな変化が起きています。

一つは、高校での情報教育の變化です。高校で情報の科目が全国的に導入されたのは一九九九年ですが、長らく不十分な体制が続いていました。それが、ここ二、三年で状況は大きく変わりました。特に二〇二五年に大学入学共通テストに導入されたことで、高校も本腰を入れて情報科目を教えるようになってきました。高校を卒業するまでに本格的な情報教育を受けた生徒が増えていることを踏まえ、大学での授業内容をアップデートしなければなりません。



服部 隆志
(はっとり・たかし)

環境情報学部教授。
専門は計算機科学。

(構成: 岡田奈和美)

境界を超えて広がる学び

-看護医療学部の授業科目-

看護医療学部の学生は、湘南藤沢と信濃町の二つのキャンパスで学んでいる。そうした環境下で提供される看護医療学部のカリキュラムはどのような独自性を持つのか。看護医療学部のカリキュラム委員会の委員長を務めている田口敦子先生にお話を伺った。



田口 敦子

●実践と講義で培う看護力
——看護医療学部のカリキュラムの特徴について教えてください。

看護医療学部は、看護学を基盤とした体系的な教育を通して、看護師国家試験受験資格を取得できる学部です。慶應義塾大学病院や慶育病院をはじめとする様々な臨床フィールドで臨地実習を行います。さらに、所定の課程を履修することで、保健師養成コースや助産師養成コースを選択し、それぞれの国家試験受験資格を目指すことも可能です。

一、二年生では看護学の基盤となる基礎科目を中心に学びますが、単なる座学にとどまらず、早い段階から医療・地域の現場に触れる機会を重視していることも、本学部ならではの特徴です。近年は、講義と演習を組み合わせた実践的な科目が充実してきています。例えば「地域包括ケア入門」では、演習形式を通じて、地域で暮らす人々の生活や支援の在り方を具体的に考える力を養います。また、五年間で学士（看護学）

と修士（看護学）を取得できる「5年一貫教育プログラム」もあります。学修意欲が高く、研究に取り組んでみたい学生が、学部在学中から大学院レベルの学びに挑戦できる環境が整っています。他にも、医学部、薬学部との三学部合同カリキュラムをはじめとした学部横断的な教育も特徴的です。多様な分野の視点を取り入れながら学ぶことで、医療や地域の現場で求められる協働力や俯瞰的な思考力を身に付けることができます。

●人々の健康の在り方について考える

——必修科目である「地域包括ケア入門」はどのような内容を学ぶ科目なのでしょう。

「地域包括ケア入門」は、地域で暮らす人々の多様な生活の場に触れながら、健康とは何かを考えることを目的とした必修科目です。授業は、学内での講義とグループワーク、地域での臨地演習を一週間ほどで行う構成になっています。まずは学内で、地域包括ケア

の基本的な考え方や、健康の概念について学び、学生同士で意見交換を行いながら理解を深めます。臨地演習では、藤沢市や周辺地域にある多様な施設や団体を訪問し、実際に利用者や参加者とコミュニケーションを取る経験を通して、障がいや精神疾患をお持ちの方の生活の場に限らず、子どもから高齢者まで、様々な世代が集う地域の居場所、在宅医療の現場、地域活動団体など、演習の場は多岐にわたります。その後、学内に戻り、これらの経験を振り返ります。健康の在り方が様々であることと踏まえた上で、それぞれの人にとって健康にはどのような意味があるのか、その人らしい健康とはどのようなものかを考えるのが最終日の課題です。

まで以上に求められています。本科目は、そうした現代の看護に不可欠な視点を、入学後の早い段階から育むことを狙いとしています。

二〇二二年のカリキュラム改定で、新しく「地域包括ケア入門」が一年生向けの必修科目として設置されました。もともと「ヘルスプロモーション実践」という選択科目がありましたが、その取り組みを発展させ、より多くの学生が地域包括ケアの概念を理解できるように必修化されました。看護は地域に根ざした実践が重要です。この科目は演習形式で行なわれ、入学後の早い段階から現場感覚を身に付けられる内容になっています。

●お互いの専門性を理解し連携を取る

——二〇一一年にスタートした医学部、看護医療学部、薬学部の三学部合同のカリキュラムはどのようなきっかけで始まったのですか。

医療の現場では、専門分化が進む中で、異なる専門職同士のコミュニケーションが非常に重要視されます。しかし、専門が異なれば、ものの見方や問題の捉え方に違いがあり、実際の現場ではそれが連携の難しさにつながることも少なくありません。この課題を解決するため、多職種連携教育（注2）が多くの大学で取り入れられつつあります。

慶應義塾大学では一九一七年に開設した医学部に加え、二〇〇一年に看護医療学部ができて、その後共立薬科大学と慶應義塾大学の合併により、二〇〇八年に薬学部が誕生しました。医療系の三つの学部がそろった教育環境を生かし、学生の段階から多職種が共に学び、互いの専門性を理解する機会を設けることが重要であるとの考えから、二〇一一年に医学部、看護医療学部、薬学部において多職種連携教育を組み入れた独自の三学部合同プログラムが始まりました。

●看護の可能性を広げるICT教育

——看護医療学部のカリキュラムに「プログラミング入門」が組み込まれたのはなぜですか。

大きな背景として挙げられるのは、看護医療学部が置かれているSFC全体が、ICT（情報通信技術）に強みを持つ教育・研究拠点であることです。SFCでは、開設当初から情報技術を社会課題の解決に生かす教育が重視されてきました。例えば、インターネット分野の第一人者として知られる村井純先生（慶應義塾大学名誉教授）が、環境情報学部を拠点に長年研究と人材育成に携わってこられたことは、その象徴的な例と言えます。

そうした環境の中で、政策・メディア研究科でICTなどのデジタル技術を学び、研究経験を積んだ宮川祥子先生（看護医療学部准教授）が、看護医療学部に着任されたことにより、看護教育の中にICTを体系的に位置づけることが現実的な選択肢として具体化し

この科目は、近年重要視されている「地域包括ケア」（注1）という概念から生まれました。入院期間の短縮、在宅医療や外来医療の進展などを背景に、看護職には、対象者を「患者」としてだけでなく、生活者として捉え、他職種と協働しながら支援する視点がこれ

教えて！ あなたの〈必修〉授業

履修の自由度が高く、多様な科目が同時に存在する総合政策学部・環境情報学部では、学生全員が履修すべき必修科目は最低限に留められている。看護医療学部はその設置目的から必修となっている科目が多い一方で、総合的な看護の学びを支える特色ある科目が存在する。そうした環境において、学生たちはどのように学びを選び、どの授業を自分にとっての〈必修〉と見なしているのか。それは個々の経験や関心から立ち上がるものなのかもしれない。そこで今回、8名の学生にアンケートを実施し、自分にとっての〈必修〉授業と、その活用法、履修上の注意点を伺った。

(担当：宮田智華)

- case1** メディアアート研究のための履修計画
- case2** すべての学びが研究を深める
- case3** 議論の姿勢を学びながら生態学を探究
- case4** 「SFCらしい学び」を堪能
- case5** 政策という観点で看護の現場を捉え直す
- case6** 生命科学の専門性を磨く
- case7** 学びの海を自由に泳いで
- case8** 理論と実践を行き来しながら

●「公共哲学」×看護医療学部
——二〇二二年から実施されている看護医療学部の「保健医療福祉行政展開論」では、鈴木寛先生（政策・メディア研究科特任教授）も講義しています。どのような授業なのでしょう。

以前、鈴木先生の「公共哲学」

ていきました。こうした背景のもと、プログラミングを含むICT関連科目がカリキュラムに組み込まれ、学生が将来、ヘルスケアITや医療情報分野など、多様な進路を思い描ける教育環境が整えられてきました。また、看護医療学部がディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）で掲げている五つの資質・能力目標の一つに「変化を起こす力」があります。ICT教育は、この力を育む上で重要な要素の一つです。ICT教育は、コンピュータが不可欠となった現代社会において、課題を見いだし、新たな解決策を構想し実装できる看護職の育成につながると考えられています。

の授業に感銘を受け、公衆衛生看護を学ぶ学生にとって重要な知識だと考え、看護医療学部での講義を依頼しました。現在「保健医療福祉行政展開論」という科目の一部を鈴木先生に担当してもらっています。授業の特徴は、講義で基本的な考え方を学んだ上で、現場で生じる様々なジレンマを想定した事例について、グループワークを通して検討する点にあります。例えば、制度と個人の尊厳が衝突する場面や、限られた資源の中で判断を迫られる状況などを題材に、「どのような価値を優先するのか」「どのような哲学的、政策的視点が適用できるのか」を多角的に考えていきます。看護職が将来直面する可能性のある葛藤を、学生の段階から言語化し、考える力を養うことを狙いとしています。

今年度の授業は総合政策学部、環境情報学部の学生、また法学部の学生も受講してくれました。本学部の学生は、共通のカリキュラムの中で専門性を深めていきますが、その一方で、同じ分野の価値

観にとらわれがちになる側面もあります。異なる専門や視点を持つ学生同士の議論を通じて、学びが深まる点も大きな魅力です。この科目は、秋学期の初めか中ごろの二日間集中講義科目として開講しています。どの学部の学生であるかにかかわらず、広く参加していただきたい授業です。

(構成：石田百花)



田口 敦子
(たぐち・あつこ)

看護医療学部教授。
専門は、公衆衛生看護学、地域看護学。

注1 地域包括ケア…介護などを必要とする高齢者が地域で自分らしい暮らしを続けられるように、主に地方公共団体が中心となって地域の関係者が連携し、住まい、医療、介護、予防などの生活支援サービスを一体的に提供すること。

注2 多職種連携教育…教育の段階から、医学部、看護医療学部、薬学部など、医療にまつわる様々な分野の学生が共に学ぶ仕組みのこと。

case3 議論の姿勢を学びながら生態学を探究

上原 大翔

環境情報学部 4年。一ノ瀬友博研究会、和田直樹研究会 (Regenerative and green lab) 所属。
研究内容：キャンパス内緑地のモウソウチク伐採による生物多様性と環境の変化の分析。



選択必修科目のおすすめ

「体育2」以降の「食事学」という授業がおすすめです。「食事学」で朝食を取るメリットを理論的に学んで以降、積極的に朝食を取ろうと意識し、健康に近づいたと思っています。いや、そう信じています。

共通科目や先端科目のおすすめ

「生態学フィールド調査法」です。本授業は生態学的なフィールド調査の目的や方法を学べる授業です。SFCの緑地がどのような理念で造られたのか、SFCは本当に自然豊かと言えるのかなど、キャンパスに対するそれまでの認識を一変させるような発見が数多くありました。4コ

マ連続とハードルは高めですが、履修する価値は大いにあると思います。

学びの生かし方

SFCの授業ではグループワークが比較的多いため、バックグラウンドの異なる他者の意見に耳を傾ける機会が多いと思います。その影響で、他者の意見を大事にしながら、議論を深めていく姿勢が育まれたと思います。

履修の留意点とアドバイス

卒業までには先端科目が30単位必要なのですが、少しあせっ(ん)たんですよ、「先端」だけに。皆様、先端科目の履修は計画的に。

case1 メディアアート研究のための履修計画

選択必修科目のおすすめ

「体育2」以降で履修できる「パラスポーツ」がおすすめです。実技と座学の2種類があり、東京・パラリンピック競泳金メダリストの木村敬一さんをはじめ、豪華な教師陣による非常に面白い授業です。

共通科目や先端科目のおすすめ

「視覚メディア表現」は、コンピュータグラフィックスと音響を扱うプログラミングツールである「C++」、「OpenGL」、「GLSL」の入門として、「openframeworks」というフレームワークを扱う授業です。実践的なスキルを身に付けられます。積極的に取り組めば、かなり

のスキルアップが期待できます。

学びの生かし方

「openframeworks」で身に付けた「C++」の知識は、研究で扱うことがあるHPC (High Performance Computing) において必須スキルとも言えるので、その基礎が学べたことは今でも自分の研究に生きていると思います。

履修の留意点とアドバイス

体育に関しては、きちんと必要単位数を確認しておくことが大切です。3年生から4年生に上がる際に体育の進級要件があり、これを満たせないと原級してしまうため注意が必要です。

菊田 有祐

総合政策学部 4年。脇田玲研究会所属。

研究内容：ニットを中心にした、ファッションと現代/メディアアートの横断領域の研究。



case4 「SFCらしい学び」を堪能

選択必修科目のおすすめ

「体育2」以降の「パラスポーツ」という授業がおすすめです。この授業は私が知らなかった世界を教えてくださいました。パラリンピックの選手を経験された方が講師を務めていて、毎回いろいろな障がいを持ったアスリートの方が講演しに来てくださいます。

共通科目や先端科目のおすすめ

「環境保全計画論」の授業が面白かったです。「SFC村」を作るために野菜、肉、衣服、住居などのジャンルごとに、何がどのくらい必要かを算出し、環境への負荷を計算しました。SFCだけでもかなりの環境負荷がかかることを学びました。ま

た、「プレゼンテーション技法」という授業もSFCらしいなと思います。

学びの生かし方

私は自分の興味をあらかじめ限定せず、シラバスを読んで直感的に面白そうだなと思った授業を選ぶようにしています。そうすることで、分野を超えた様々な学びが深められ、自分の視野を広げることができます。

履修の留意点とアドバイス

私は入学前からSNS等で情報収集をして備えていましたが、1年秋学期では抽選にかなり落ちてしまいました。日吉の授業を代わりに取ったことがあります……。履修の情報は確実に把握しておくことをおすすめします！

A.K.

環境情報学部 2年。馬場かな研究会所属。
研究内容：ドイツの地域都市はなぜ活気があるのかについての研究。

case2 すべての学びが研究を深める

選択必修科目のおすすめ

DS2の「医療健康のデータサイエンス (GIGA)」は「科学的手法」を感覚的に学ぶのに役立ちました。統計の基礎的な知識だけで、事例に取り上げられる医学論文の妥当性を検証できたのが面白かったです。

共通科目や先端科目のおすすめ

「開発とローカリズム (GIGA)」と「現代政治論 (GIGA)」は今でも印象に残っています。非当事者がある社会課題に挑もうとすると、「解決」として掲げられる目標は果たして誰の定義によるものなのか、立ち止まって批判的に考える視点が身に付いたように思います。グローバルな活動に関心がある方におす

めです。

学びの生かし方

事前知識の有無にかかわらず、興味のある授業をどんどん履修しました。いろいろな分野に触れた結果、既存の学問分野には収まらない多様な視点で自分の研究を捉えられるようになったと思います。

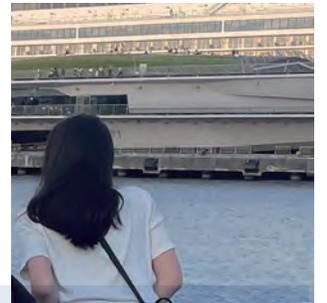
履修の留意点とアドバイス

卒プロメンター申請を3年の後期に行うのですが、私はその1学期前までに卒プロメンターが指定するアスペクト科目の一つから最低4単位履修している必要があることをこれまで知りませんでした。意外な落とし穴……？

G.M.

2025年総合政策学部卒業。在学時は廣瀬陽子研究会所属。

研究していた内容：難民申請者の支援団体を対象に、ロビイング活動や国会審議の分析を通じて、政策提言の反映条件を調べる研究。



case7 学びの海を自由に泳いで

選択必修科目のおすすめ

DS1の「統計基礎」はおすすめです。オンデマンドビデオなど復習しやすい環境があり、学習内容も基礎から学べるので応用が利きやすくなっています。統計分析ソフトの「R」を使用しますが、そこまで難しく印象でした。

共通科目や先端科目のおすすめ

「パーソナルプレイスデザイン」の授業は面白かったです。紙とペンで自由にメモを取って、最終的に自分なりのデザイン辞典を作成します。デザインとは何か、デザインへの向き合い方とはいかなるものか、懇切丁寧に教えてもらえるため、興味はあるけど実際デザインとは何か分か

らないという方におすすめです。

学びの生かし方

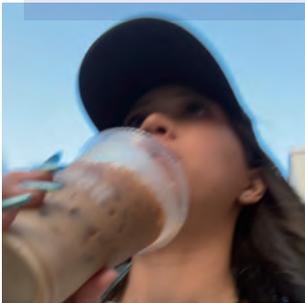
私の関心事項がそのままずばり授業で扱われることは稀でしたが、SFCでは言語や定義を深く学ぶことができます。そのおかげで、まだ答えの出ていない問題でも、興味を赴くままに研究することができるようになりました。

履修の留意点とアドバイス

1単位授業に注意！ 単位計算が狂いますし、もし興味の度合いが同等なら、同じ時間で2単位取得できる授業のほうが良いでしょう。オンデマンド授業は計画的にこなしましょう！ 意外にも課題の準備期間が短かったり課題量が多かったりします！

速水 理沙

総合政策学部4年。宮本大輔研究会所属。
研究内容：言語学オリンピックを用いた満洲語の言語解読と歴史的背景との関連洞察・提言。



case5 政策という観点で看護の現場を捉え直す

選択必修科目のおすすめ

「世界の医療・保健制度I（比較制度論）」という授業が面白かったです。医療や看護について初めて政策側から考え、色々な国の医療政策を比較できたからです。また、研修系の授業は全て面白い気がします。実際に見たり経験することはとても重要だと思うからです。海外研修に行けない場合でも、国内の演習に参加することをおすすめします。

学びの生かし方

海外研修に参加する際に、今まで受けてきた「世界の医療・保健制度I（比較制度論）」の授業や、国際医療の実態に関するその他の授業で

の学びが役立ちました。看護の観点だけで目の前の人を見るのではなく、政策から変えていくことが途上国でも先進国でも必要だという視点から見学やディスカッションを行うことで、一歩先の考察ができました。

履修の留意点とアドバイス

選択授業によっては履修申告をする期間が一般の履修申告と異なるため、手続きを忘れそうになることがあります。また、看護医療学部の授業は必修科目が多く、履修しないと留年してしまうのですが、必修科目も自動的に履修申告されるわけではありません。履修申告の際には注意が必要です。

M

看護医療学部3年。



case8 理論と実践を行き来しながら

選択必修科目のおすすめ

「世界の保健医療制度II」では実際に英国に行き、助産院や病棟などの見学をしたり、講義を受けたりすることができます。特にディストリクトナース（注）の方からのお話では、日本と異なる看護師の役割や医療制度により生じる状況がとても新鮮でした。また、「公衆衛生看護活動論」では保健師が行う地区踏査を学生も実践し、一つの地域について学ぶ実践形式を取っていたため、実際に地域を歩き地域住民と話すことで得られる視点や情報があると実感しました。

学びの生かし方

必修科目での学びの積み重ねが、

実習で行うケアの意義や患者／利用者への影響を深く理解する助けとなりました。また、他学部のものを含め選択で受講した授業では医療の構造や倫理的側面についても考えることができ、看護という枠を超えた視点を得られたと実感しています。

履修の留意点とアドバイス

保健師・助産師コースに応募するためには、その時まで履修しておかなければならない講義があるため、同じ志望の友達同士で受講できているかチェックすることをおすすめします！ また選択科目は選択肢の多い1、2年のうちに受けるべし！

注 ディストリクトナース：イギリスにおける訪問看護師の名称。

E.S.

看護医療学部3年。
研究する予定の内容：地域での孤独やコミュニティについての研究。



case6 生命科学の専門性を磨く

選択必修科目のおすすめ

「マレー・インドネシア語」はプレゼンやマイ語キャンプなどアウトプットの機会が多く、楽しく学べました。また、DS2の「生命科学実験の基礎」は基本的な実験操作を学ぶため、未経験の自分にとってはありがたかったです。

共通科目や先端科目のおすすめ

「プレゼンテーション技法」や「相互交流と間主観性」はグループワークを通じて、相手へ伝える時の表現方法や自己理解を深められるのでおすすめです。鶴岡タウンキャンパスの科目だと、「メタボローム解析実習」という授業が面白かったです。市販の数種類のヨーグルトに含まれる代謝物質を調査・比較し、それぞれの魅力を考えるというものです。

学びの生かし方

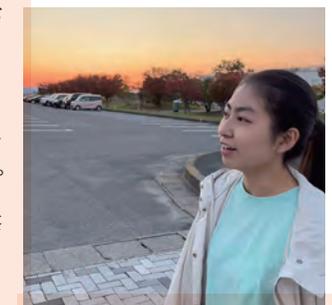
鶴岡タウンキャンパスで実施されるバイオキャンプでは、生命科学の手法や考え方を集中的に学ぶことができます。ウェット（生物実験）とドライ（コンピュータを用いた解析）どちらの技術も学べた経験は、自身の研究に役立ちました。1年次にプレゼンテーションが多い授業を履修したおかげで研究発表もしやすくなりました。

履修の留意点とアドバイス

初めの頃は同じ専攻分野の先輩に相談できたので迷わずに済みました。ただ、選抜エントリー締め切り直前にサーバードアウンがあり、課題を出し損ねそうになったことがあります。履修登録も余裕を持って行うのが大事です……。

菊地 千花

環境情報学部4年。先端生命科学研究所所属。
研究内容：非モデル生物である変形菌を対象として、培養法の最適化に向けた研究。



※掲載されている情報は2026年3月時点での情報です。



No.20

第一線級の国際会議に行こう、批判を受けよう、ついでに批判もしてこよう!

金井 昭夫 (かない・あきお)

経 歴：2001年-2005年 環境情報学部 助教授
2006年-2022年 環境情報学部 教授
2022年-2026年 大学院 政策・メディア研究科 教授
(環境情報学部 教授を兼任)

学 位：薬学博士
専門分野：分子生物学、分子進化学

●SFCの学生へメッセージ
SFCに職を得る少し前の一九九九年から、これからの生命科学はRNA(リボ核酸)のことで、遺伝情報が発現する時などに重要な働きをします)が面白くなると考えて、RNA Society(国際RNA学会)に入会しました。そして、この学会の年会(年に一回の週間ほどの研究発表会)に学部や大学院の学生と訪れることを通じて、学生たちが、大きく羽ばたいていく瞬間を、何度も目にしました。第一線級の国際会議に若いうちから参加、発表することは、該当する分野で力をつけていくために、極めて有効な手段であると考えられます。従って、国内の専門の学会で発表できるような研究内容を持った学生は積極的に海外の学会に同行してもらいました。多い時には七、八名の学生にポスター発表をしてもらうような時もありました。国際会議の良さは数々あるのですが、まず、いつもは学術論文でしか知ることのできないような著者たちと直接お話しできるチャンスが生まれます。とても著名な研究者でも、ポスター発表に積極的に参加してくれず、慶應義塾の学生たちは他の大学の学生ともすぐに仲良くなります。なんと、ある学生は米スタンフォード大学

の教授と仲良くなっていましたし、別の学生は米エール大学の教授から、卒業したら博士研究員としてうちのラボに来ないかと言われるようなこともありました。もう一つ、重要なことは、その年会の開催場所が、米国で言えば、ウイスコンシン大学、ワシントン大学、ミシガン大学、カルフォルニア大学であったり、カナダ、ドイツ、スイス、ポーランド、チェコ、シंगाポールなどの国際会議場であったりすることです。これは、研究するということの他に、その時代というものに、開催場所の文化や食事を介して直接に触れることにもなるのです。これが人生の宝になります。

●お気に入りの一枚

この写真は二〇〇九年に米ウイスコンシン大学で開催されたRNA 2009に学生と参加した時の思い出の一枚です。私(左から四番目)の他、ここに参加した七名の学生は、結果的に四名が大学院政策・メディア研究科の博士課程修了まで、三名が修士課程修了まで進学してくれました。博士課程修了者は、その後、留学などを経て、あるいは卒業してすぐに、東工大(現東京科学大)、東京大、大阪大などに職を得ており、また一人は



鶴岡発のベンチャー会社の立ち上げメンバーとして活躍をしています。修士課程の修了者も、食品会社の研究員や、京都大の研究技術スタッフとなったことを記憶しています。SFCの在学生の皆さん、助成金や奨学金に申請しましょう、あるいは良いアルバイトをしましょう。そうして、第一線級の国際会議に参加すること、発表すること、批判的に行いましょう。その場で批判を受け、ついでに批判もしてきましょう。それが研究の喜びにつながっています。



連載

贈る言葉

今年3月SFCをご退職される先生方に、これまで長く教鞭を執られてきた中で特に思い出に残っていることやお気に入りの場所、これからのSFCに期待することについて寄稿していただいた。多様な学問領域の中を常に第一線で活躍されてきた先生方の目には、どのようなSFCが映し出されているのだろうか。



No.22

キャンパスに集い、平均値を超えた学びをしよう

巖 網林 (げん・もうりん)

経歴：1993年-1996年 環境情報学部 助手
 2001年-2002年 環境情報学部 助教授（有期）
 2003年-2006年 環境情報学部 助教授
 2007年-2025年 環境情報学部 教授

学位：博士（工学）
 専門分野：地理情報科学、都市・地域計画、持続可能な発展

●お気に入りの一枚
 SFCは、学際的キャンパスとしてきわめて幅広い学問領域をカバーしている。その中でも、環境情報学部は、自然と調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景が広がります。



●お気に入りの一枚
 SFCのキャンパスは、明確なランドスケープデザインと理念のもとに構成されています。四季の移ろいに応じて、キャンパスの随所が豊かな表情を見せ、私にとって心に残る風景は枚挙にいとまがありません。春には浅間神社の桜、夏には夕陽を彩る紅葉、そして秋には夕陽を彩る紅葉、そして冬には研究棟五階から望む、夕陽に赤く染まる富士山——それぞれが忘れがたい一場面です。あえて「一枚」を選ぶとすれば、生協前から望むカモ池と、その向こうを行き交うツインライナーが織りなすパノラマでしょう。下校する学生たちの列、水面に倒影を映す赤いツインライナー、親子連れのカモ、斜面に思い思いにカモる学生たち。そこには、人間、生き物、そして自然が調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景があります。

●お気に入りの一枚
 SFCは、学際的キャンパスとしてきわめて幅広い学問領域をカバーしている。その中でも、環境情報学部は、自然と調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景が広がります。

●お気に入りの一枚
 SFCのキャンパスは、明確なランドスケープデザインと理念のもとに構成されています。四季の移ろいに応じて、キャンパスの随所が豊かな表情を見せ、私にとって心に残る風景は枚挙にいとまがありません。春には浅間神社の桜、夏には夕陽を彩る紅葉、そして秋には夕陽を彩る紅葉、そして冬には研究棟五階から望む、夕陽に赤く染まる富士山——それぞれが忘れがたい一場面です。あえて「一枚」を選ぶとすれば、生協前から望むカモ池と、その向こうを行き交うツインライナーが織りなすパノラマでしょう。下校する学生たちの列、水面に倒影を映す赤いツインライナー、親子連れのカモ、斜面に思い思いにカモる学生たち。そこには、人間、生き物、そして自然が調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景があります。

●お気に入りの一枚
 SFCは、学際的キャンパスとしてきわめて幅広い学問領域をカバーしている。その中でも、環境情報学部は、自然と調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景が広がります。

●お気に入りの一枚
 SFCのキャンパスは、明確なランドスケープデザインと理念のもとに構成されています。四季の移ろいに応じて、キャンパスの随所が豊かな表情を見せ、私にとって心に残る風景は枚挙にいとまがありません。春には浅間神社の桜、夏には夕陽を彩る紅葉、そして秋には夕陽を彩る紅葉、そして冬には研究棟五階から望む、夕陽に赤く染まる富士山——それぞれが忘れがたい一場面です。あえて「一枚」を選ぶとすれば、生協前から望むカモ池と、その向こうを行き交うツインライナーが織りなすパノラマでしょう。下校する学生たちの列、水面に倒影を映す赤いツインライナー、親子連れのカモ、斜面に思い思いにカモる学生たち。そこには、人間、生き物、そして自然が調和して響き合う、一つのオーケストラのような光景があります。



No.21

スタイルを壊し続ける力

桑原 武夫 (くわはら・たけお)

経歴：1990年-1993年 総合政策学部 助手（嘱託）
 1993年-1999年 総合政策学部 専任講師
 1999年-2006年 総合政策学部 助教授
 2006年-2026年 総合政策学部 教授

学位：博士（社会学）
 専門分野：マーケティング、消費者研究



●お気に入りの一枚
 「オール慶應」という体育会フェンシング部による恒例イベントの風景です。慶應義塾のフェンシング・ファミリーが一堂に会し、本気とお楽しみを織り交ぜながら、老若男女（小学生から八十代半ばまで）混合の俄か作りチームで団体戦を戦います。フェンシング部長を十三年ほど務める中で、リーグ戦や早慶戦といった真剣勝負に夢中になることも少なくありませんでしたが、私は慶應義塾の絆とその豊かさを感じられるこの一日がとても好きでした。

また、写真を撮ることはできませんでしたが、体育館の剣道場も思い出深い場所です。（本当はいけなかったことのような気がしますが）ご担当の先生方や受講生の皆さんに受け入れていただき、毎週のフェンシングの授業に参加していたからです。その時々ライ

●お気に入りの一枚
 「オール慶應」という体育会フェンシング部による恒例イベントの風景です。慶應義塾のフェンシング・ファミリーが一堂に会し、本気とお楽しみを織り交ぜながら、老若男女（小学生から八十代半ばまで）混合の俄か作りチームで団体戦を戦います。フェンシング部長を十三年ほど務める中で、リーグ戦や早慶戦といった真剣勝負に夢中になることも少なくありませんでしたが、私は慶應義塾の絆とその豊かさを感じられるこの一日がとても好きでした。

●お気に入りの一枚
 「オール慶應」という体育会フェンシング部による恒例イベントの風景です。慶應義塾のフェンシング・ファミリーが一堂に会し、本気とお楽しみを織り交ぜながら、老若男女（小学生から八十代半ばまで）混合の俄か作りチームで団体戦を戦います。フェンシング部長を十三年ほど務める中で、リーグ戦や早慶戦といった真剣勝負に夢中になることも少なくありませんでしたが、私は慶應義塾の絆とその豊かさを感じられるこの一日がとても好きでした。

●お気に入りの一枚
 「オール慶應」という体育会フェンシング部による恒例イベントの風景です。慶應義塾のフェンシング・ファミリーが一堂に会し、本気とお楽しみを織り交ぜながら、老若男女（小学生から八十代半ばまで）混合の俄か作りチームで団体戦を戦います。フェンシング部長を十三年ほど務める中で、リーグ戦や早慶戦といった真剣勝負に夢中になることも少なくありませんでしたが、私は慶應義塾の絆とその豊かさを感じられるこの一日がとても好きでした。

●お気に入りの一枚
 「オール慶應」という体育会フェンシング部による恒例イベントの風景です。慶應義塾のフェンシング・ファミリーが一堂に会し、本気とお楽しみを織り交ぜながら、老若男女（小学生から八十代半ばまで）混合の俄か作りチームで団体戦を戦います。フェンシング部長を十三年ほど務める中で、リーグ戦や早慶戦といった真剣勝負に夢中になることも少なくありませんでしたが、私は慶應義塾の絆とその豊かさを感じられるこの一日がとても好きでした。



No.24

創発的な対話を通して、新たな「処方箋」を

小池 智子 (こいけ・ともこ)

経歴：2001年-2005年 看護医療学部 専任講師
2005年-2026年 看護医療学部 助教授、准教授
学位：博士（看護学）
専門分野：看護管理、看護政策

●お気に入りの一枚——対話から生まれる「共創」の種

疑問や発想に蓋することなく、自由闊達に議論ができるSFCの文化を、私は深く愛してきました。慶應義塾の理念「半学半教」は、この地でいっそう際立ち、日々多くの創発の種が発芽しているように感じています。

私もこれまで、学生や卒業生との対話を通じ、新たな挑戦を後押しする科目を新設してきました。その一つが、医療系三学部合同によるラオス研修「プライマリヘルスケアと国際保健Ⅱ」です。医療を志す異なる学部の学生たちが、専門を超えて学び合いたいと願った声から、二〇〇九年に未来先導基金を得て開始しました。現在は医・看・薬の三学部によるIPE（専門職連携教育）科目として定着しています。学生たちは



ラオスというフィールドで医療チームを形成し、現地のプライマリヘルスケア活動に主体的に参加し学んでいます。

途上国支援では、つい「欠乏」や「出来ないこと」に着目しがちですが、現地にある資源や地域社会の強みを活かすことの方が、活動の受容性を高め、住民のレジリエンスを育む鍵となります。例えば、手指衛生の不徹底から下痢症が頻発する農村部では、教育だけでなく「手洗いの場」の確保が急務でした。学生たちは現地で活動する卒業生と連携し、安価な素材で住民自ら維持管理できる施工方法を選択。住民と共に汗を流して完成させた手洗い場で、歓声を上げて手を洗う子どもたちと喜びを分かち合う経験は、学生の心に新たな種を落としています。これまでに二二五名が履修し、卒業後に国際保健の最前線で活躍している者も少なくありません。

●未来のSFCへ——領域を超えた「処方箋」の創出

二〇〇一年の学部開設時、当時の学部長はSFCにおける看護医療学の意義をこう語りました。「SFCはキャンパス名であると同時に、私たちが目指す姿そのものです。すなわち、SHARE（環境情報）× FAIRNESS（総合政策）× CARE（看護医療）の融合によって、ヘルスケアに新たな展開と価値を生み出すのです」。現代の複雑な社会課題への処方箋は、専門領域の深化だけでなく、学際的研究によってこそ有用なものとなります。

慶應SFC学会による「ミライ学問の場創生プロジェクト助成」の開始は、次代を切り拓く大きな希望です。開設二十五を迎え、三学部二研究科の交流がいっそう有機的に広がり、人々のWell-beingに貢献する活動が次々と生まれていくことを心から願っています。



No.23

財閥研究に導かれて

柳町 功 (やなぎまち・いさお)

経歴：1997年-2009年 総合政策学部 助教授、准教授
2009年-2026年 総合政策学部 教授
学位：博士（商学）
専門分野：現代韓国論、東アジア経営史・財閥史（韓国・日本）



●贅沢な時間

「二限授業」——学生にとって一限授業を履修することはなかなかのチャレンジだと思います。学生時代の私もそうでした。しかし一九九七年、SFCに赴任してからは、なんと、担当授業を一限にするようになりました。当初、時間を無駄に使うのはもったいないから……といった単純な動機から始めた一限授業でした。

しかし、次第に変わりました。授業開始一時間前、朝八時半ごろにキャンパスに到着する生活は、朝の静かなキャンパスと清々しい空気を思いっ切り味わえる「贅沢な時間」であることに気づいたの

です。こうして一限出勤は私の生活のリズムとなりました。研究室のある入館四階から外を眺め、季節の景色を楽しむのも静かな朝の楽しみでした。写真は二〇一八年秋の朝、研究室前から見下ろした紅葉の姿です。

SFCにはほかにも素晴らしい景色を満喫できる場所がたくさんあります。忙しいSFC生活の中で、ふと立ち止まって感じられる時間を大切にしたいと思います。朝の空気の清々しさ、そして紅葉の美しさ……。この静かな時間は私にとってとても贅沢な時間でした。

でもありました。その創業家でも世代交代が進み、韓国は間違いなく豊かになりました。

しかしその間、財閥は激変する政治に翻弄されてきました。例えば、私がSFCに赴任した一九九七年、アジア通貨危機に襲われ韓国経済は破産の一步手前に至りました。政財界を巻き込んだ巨大スキャンダル（国政壟断事件）やつい最近の非常戒厳令の宣布による政治的大混乱（内乱謀議事件）など、ともに大統領が弾劾・罷免される事件が起きています。日韓関係においても今まで何度も大小さまざまな事件が生まれています。

韓国財閥を理解するためには韓国現代史そのものへの理解が不可欠です。なんとか朝鮮語を駆使して財閥研究を行っているうちに四十年になってしまった……というのが正直なところですが、今でも財閥研究はとてもエキサイティングな研究分野です。学生の皆さんも、是非エキサイティングな研究分野を見つけてください。SFCではいろいろなことが学べます。徹底的にこだわりを持って研究するって、素晴らしいことだと思います。頑張ってください！

S F C 万学博覧会取材記

2025年11月22日と23日の2日間にわたり、秋のSFCを彩る恒例イベント「SFC万学博覧会」が開催された。SFC最大の研究発表の場であるORF（オープンリサーチフォーラム）をはじめ、学術交流大会、オープンキャンパス、藤沢市民講座など、多彩な企画が結集し、キャンパスは世代や立場を超えた来場者で賑わいを見せた。本記事では、その様子を写真を通してレポートする。



No.25

悠然と佇む看護医療学部校舎で

野末 聖香 (のずえ・きよか)

経歴：2001年-2026年 看護医療学部 教授
2005年-2026年 健康マネジメント研究科 教授
学位：博士（看護学）
専門分野：精神看護学

●SFCのお気に入りスポット

「慶応大学」バス停を降り、桂並木を抜けた先に看護医療学部校舎の全貌が見えてくる——。私はこの場所が好きです。初めてこの地を訪れた二十五年前、新築の校舎は大鷹の住む森と竹林に囲まれ、凛とした佇まいで私を迎えてくれました。それまで慌ただしい医療現場にいた私にとって、そこは時間が止まっているかのように静謐で美しく、「さあ、ここで腰を据えて教育研究に取り組むのだ」と、背筋を伸ばしたことを覚えています。

前庭はまさに生き物の宝庫で、開学部当初の休日には、まだ小さかった子どもたちと遊びに来て、通常の数倍はあろうかという大きなカマキリやバッタに、親子で目を丸くしたものでした。これほどまで心安らぐ校舎は、他にないのではないのでしょうか。学部が開設されて四半世



紀。時には重たい気持ちを抱えて校舎を見上げる日もありました。しかし、どんなに心が揺れ動くときも、校舎は変わらず、動じず、ただそこに在ってくれました。その不変の佇まいが、途方に暮れたり、ジタバタしたりする私の心を幾度となく静かに鎮めてくれたように思います。目を凝らせば、二、三の激しい揺れが残した段差があり、壁面は陽光を浴びて少しづつ色褪せてきています。周囲の景色が移ろいゆく中で、校舎に刻まれたこれらの跡は私たちが共に歩んできた歳月の証そのものです。この学び舎から羽ばたいた二千人を超える卒業生たちも、今ではそれぞれ別の場で素晴らしい活躍を見せてくれています。

二十五年の月日が流れ、私もまたこの場所を離れます。けれど、看護医療学部校舎はこれからも、学生や卒業生、そして教職員にとって、いつでも安心して立ち返ることができる心の拠り所——Home Baseであり続けることでしょう。

●SFCの学生へメッセージ

看護医療学部は、校舎こそ少し離れた場所にあります。SFC

を形作る三学部の一員です。領域を越えて知を融合させ、未解決の課題に挑むための「新しい知性」を紡ぎ出し続ける。それが私たち三学部に通じるSFCのアイデンティティです。その中にある看護医療学部は、人々の命と健康そして生活の質を支える統合的な働きかけを追求し、困難な健康課題に挑む、という理念の体現を指しています。

看護医療学部の学生は必修科目が多くて大変ですが、だからこそもっと他学部の授業や研究会へ飛び込んでみてください。そして総合政策学部、環境情報学部の皆さんも、ぜひ看護医療学部の授業や活動に入り込み、知見に触れてください。お互いの違いを面白がり、リスペクトし合う交流・議論の中にこそ、未来を拓く鍵が隠れているのではないのでしょうか。SFCという刺激的な環境を活かし、皆さんがしなやかに大胆に、これからの社会を共創していくことを心から応援しています。そして何より、皆さんが、一度きりのかけがえのない人生を、自分を信じ、自分らしく歩んでいけることを願っています。

古谷知之研究室。
水中ドローンの展示。



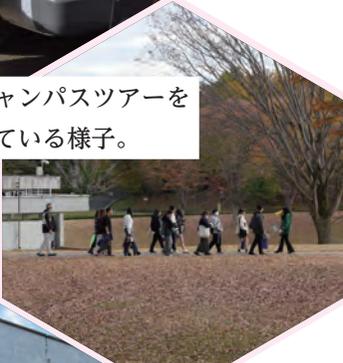
KEIO SFC REVIEWの
ポスター発表。
過去の号を配布し、たく
さんの来場者に手に取っ
ていただいた。



特別座談会：月から
SFCで宇宙の未来を



キャンパスツアーを
している様子。



学生生活紹介
コーナー。



絶好の紅葉日和♪



小林博人研究会
koblab「とりあ
えずみんなでやっ
てみる」展示。



屋台の様子。近隣の
焼き芋店も出店。



今年もたくさんの人を
迎え入れた。



鳥の鳴き声を
聴きながら見
る3Dモデル。



アメリカ製宇宙服
レプリカの展示。



福澤諭吉先生像前も
フォトスポットに。



たくさんの屋台で良
い香りが漂う広場。



先端生命科学研究所
の標本展示。



NeuroMusic Lab/
x-Music Lab による
ORFセッション。



ピクニックをテーマにした
展示。思わず足を止めて腰
を下ろしたくなる。



一ノ瀬友博研究室の
展示には、生き物た
ちの写真が。



フォトスポット発見♪



生物探索ツアー。
本誌81号「SFCのいきもの」
も要チェック！



加藤文俊研究室「ZINEとフィールドワーク」
ORF展示。フィールドワークの中で制作
されたZINEやポスターがずらりと並ぶ。



相磯秀夫先生を偲んで

——冒険の号砲を鳴らした師への誓い

村井純

慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（SFC）の産みの親であり、日本の計算機科学の巨星であった相磯秀夫先生が、静かにその生涯の幕を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

今、改めて相磯先生との日々を振り返るとき、私の脳裏に蘇るのは、単なる温厚な教育者の姿ではありません。それは、既存の枠組みを打ち破り、未踏の地へと突き進む「冒険者」としての峻烈な眼差しです。

峻厳なる師との邂逅

私が相磯先生と深く関わるようになったのは、先生が率いられた工学部電気工学科（現・理工学部）の、いわゆる「相磯研究室」との連携がきっかけでした。当時の相磯研は、まさにコンピュータ科学の最前線を走る花形研究室であり、その門を叩くこと自体が極めて高いハードルとされていました。

私は数理工学科の大学院、斎藤信男研究室におり、分散処理という夢を追いかけていました。しかし、ソフトウェアの力だけでコンピュータは繋がりません。そこで私は、相磯研のネットワーク・ハードウェアチームと連携し、工学部の各学科を繋ぐキャンパスLANを一から構築するプロジェクトに身を投じました。その縁で、博士課程の始まりとともに、所眞理雄講師と共に相磯研のネットワークグループを率いる立場となったのです。

いわば「横から」入った私を待っていたのは、相磯先生の容赦ない言葉の洗礼でした。毎週のミーティングは、知性の真剣勝負の場でした。先生の弟子を自認する者は、誰もが一度はその鋭い名指しの指導に身がすくむ思いをしたはずで、私もその一人であり、助手として東京工業大学へ赴任する際には、「自分は相磯研の落ちこぼれだ」と自覚しながら義塾を後にしたことを覚えています。

東工大では「CTD」の構築に明け暮れ、「論文を書く前に、まず作り、動かす」という現場主義を貫きました。それは研究者としてはある種、異端の歩みだったのかもしれませんが。しかし、その不器用な歩みこそが、後に先生から受ける「召集令状」への伏線となっていたのです。

野獣のごとき「挑戦」の表情

一九八六年、相磯先生から突然の誘いを受けました。「一九九〇年に始まる新しいキャンパスに、教員として参加してほしい」。

驚愕しました。翌年からは東京工業大学への移籍が決まっており、研究者としての礎すらおぼつかない私が、なぜ選ばれたのか。なぜ先生は、私のような向こう見ずな人間に声をかけたのか。その真意を問うべくお会いした際、私は先生の表情に、それまでに見たことのない「熱」を感じました。

新キャンパスへの想い、これからの教育と研究に対する壮大な夢。そして、共に創設を担う加藤寛先生や準備チームの素晴らしさを語る相磯先生の顔。そこには、日本最古の学府に全く新しい知のパラダイムを打ち立てようとする、ある種の「野獣性」すら宿っていました。それは、未知なる海原へ漕ぎ出そうとする冒険者の、頼もしくも畏怖を感じさせる挑戦の表情でした。

「この人の表情を信じよう」

私はその決意のもと、SFC準備委員会の末席に加わりました。東大での三年間を自らの研鑽の時とし、一九九〇年、ついに相磯先生と共にSFC創設の一員としてその土を踏んだのです。

SFCの未来へ繋ぐバトン

あれから三十五年の月日が流れました。

相磯先生がその生涯を捧げて成就されたコンピュータアーキテクチャの研究は、今やデジタル文明の血肉となり、社会のあらゆる側面に計り知れないインパクトを与えています。そして、その技術を使いこなし、総合的な政策を担うSFCの卒業生たちが、今や世界の未来を創り始めています。

SFCに学ぶ者は、真に幸福です。困難な課題に直面したとき、我々には立ち戻るべき原点があるからです。新しい技術によって拓かれる文明のあり方を説いた福澤諭吉先生の教え。そして、その理念を現代において具体化し、SFCという壮大な挑戦を先導された相磯先生、加藤先生の創設の理念です。

相磯先生、先生が我々に植え付けてくださった「まず動かし、社会を変える」という野性味あふれる挑戦心は今もこのキャンパスの風の中に息づいています。先生から託されたこの「未完の挑戦」に、私たちは挑み続けます。厳しい言葉の裏にあった、あの温かくも烈しい期待を胸に、私たちは歩みを止めません。相磯秀夫先生、どうか安らかにお休みください。そして、これからも私たちの挑戦を、空の上から厳しく見守り続けてください。



相磯 秀夫
(あいそ・ひでお)

1932年生まれ。1955年慶應義塾大学工学部電気工学科を卒業、1957年同大学大学院工学研究科電気工学専攻修士課程を修了。1971年に慶應義塾大学工学部教授に就任後、1990年から慶應義塾大学環境情報学部初代学部長、1994年から慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科初代委員長を歴任。その後、1999年東京工科大学初代メディア学部長、同年6月同大学学長に就任した。

編集後記

慶應SFC学会

発行人 黒田 裕樹 (会長 / 環境情報学部教授)
担当理事 宮代 康文 (総合政策学部准教授)
事務局 田坂 真美

編集長 岡田 奈和実 (総合政策学部 2年)

副編集長 宮田 智華 (総合政策学部 2年)
 服部 琴夏 (総合政策学部 1年)

編集委員 深町 優雨 (総合政策学部 4年)
 藤田 叶子 (総合政策学部 4年)
 石田 百花 (総合政策学部 3年)
 平野 瑠理 (総合政策学部 3年)
 松本 ころこ (総合政策学部 3年)
 井庭 晴香 (環境情報学部 3年)
 藤井 美来 (環境情報学部 3年)
 野畑 六花 (環境情報学部 2年)
 吉仲 貴紀 (環境情報学部 2年)
 高坂 真優佳 (総合政策学部 1年)
 宮野 真陽 (総合政策学部 1年)

表紙 / 誌面デザイン

宮田 智華 (総合政策学部 2年)

デザイン協力

藤田 叶子 (総合政策学部 4年)

発行日 2026年3月15日
発行所 慶應SFC学会
 〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 5322
 0466-49-3437
<https://gakkai.sfc.keio.ac.jp/>
keio-sfc-review@sfc.keio.ac.jp

無断転載・複製を禁じます。ご相談は慶應SFC学会までお寄せください。

今年もまた、多くの学生がキャンパスを巣立ち、門をくぐる季節が訪れようとしています。そのような折に発行となる本号の特集「学びの核の現在地」では、各学部の必修授業やカリキュラム構成に関わる先生方への取材や学生へのアンケートを通じて、SFCの学びに通底する思想や各科目を学ぶ意義を捉えることを試みました。

「研究会」「プロジェクト」を中心とする総合政策学部、環境情報学部と、資格取得を目標に据えた必修科目群が連なる看護医療学部において、今回特集で取り上げた科目たちは、ある意味で学びの周縁にあるように見えるのかもしれませんが、その中にこそ学びの核が新たな形で立ち現れているのではないかと思うのです。最先端のキャンパスとしてスタートを切ってから数十年、「SFCらしい学び」はその仕組みによって様々に形を変えてきました。変化の節々で立ち止まり、各学部の今とその在り方を語ることを試みた本誌第55号「新カリキュラム」、本誌第59号「再発見、看護医療学部」、SFC CLIP「14学則特集」は、この特集を企画するに当たり、大きな支えとなったように思います。程度の差はあれど、学生たちが自分なりの問題意識をもとに構成するというSFCの思想と学びの形を支えているのは、紛れもなくカリキュラムという土台です。ここで学び私たちは、与えられた環境の中で、いま・ここにあるものをなんとなく受け入れてはいないでしょうか。節目の年を迎えるSFCの三学部が、これからも考えることを諦めず、対話し、学びを拓く場所であり続けるために。微力ではありますが、新たな季節を迎える皆様にとって、本号が「SFCらしい学び」を見つめ直す足掛かりとなることを願っています。

お忙しい中、インタビューやご寄稿にご協力くださった方々をはじめとして、本号も多くのお力添えにより完成させることができました。心を寄せてくださった全ての皆様に、そして手に取っていただいた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

今後ともKEIO SFC REVIEWをどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2026.3.2 編集長 岡田奈和実

本誌第81号の掲載記事「SFCで植物観察」におきまして、「マテバシイの葉」とした写真のキャプションは、正しくは「ヤマザクラの葉」でした。訂正して、お詫びいたします。



こちら (<https://gakkai.sfc.keio.ac.jp/review/jp/>) から一部のバックナンバーをご覧いただけます。



KEIO **SFC** REVIEW No. 82

ISSN 1343-3318

発行所 / 慶應SFC学会

<https://gakkai.sfc.keio.ac.jp/>